

2023年3月期 第1四半期 決算説明資料

2022年 8月 5日

SRS ホールディングス 株式会社(東証プライム：8163)



2023年3月期 第1四半期 決算概要

業績ハイライト	4
主力業態 既存店推移	5
業態別店舗数	6

事業別施策 進捗状況

和食さと、天井・天ぷら本舗 さん天	8
長次郎、CHOJIRO、宅配にぎり長次郎、家族亭、得得	9
宮本むなし、かつや、からやま	10

Appendix

株主還元	12
貸借対照表	13
SDGsの取組み	14
2023年3月期出店店舗	17

2023年3月期 第1四半期 決算概要

◆ **売上高** : 127億71百万円 前年同期比 **+37億42百万円 増収**

- ・まん延防止等重点措置が解除され、営業時間の制限が無くなったことに伴い、来店客数が回復基調となり、前年実績を大きく上回り増収

◆ **営業利益** : △3億00百万円 前年同期比 **+11億72百万円 増益**

- ・増収による影響と、粗利率の改善等により、前年実績に対して増益となったものの、売上高がコロナ前の水準まで回復していないこと等から営業損失を計上

◆ **経常利益** : △3億13百万円 前年同期比 **△12億34百万円 減益**

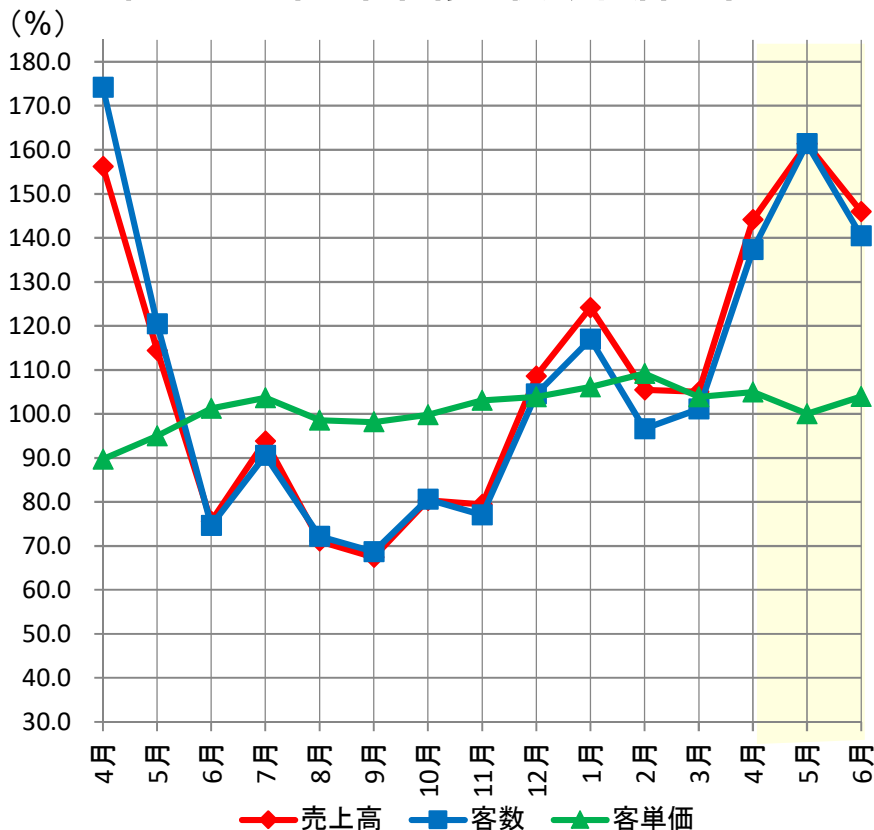
◆ 親会社株主に帰属する
当期純利益 : △1億91百万円 前年同期比 **△8億08百万円 減益**

- ・前年の営業時間短縮に伴う協力金の反動により、前年実績に対して減益

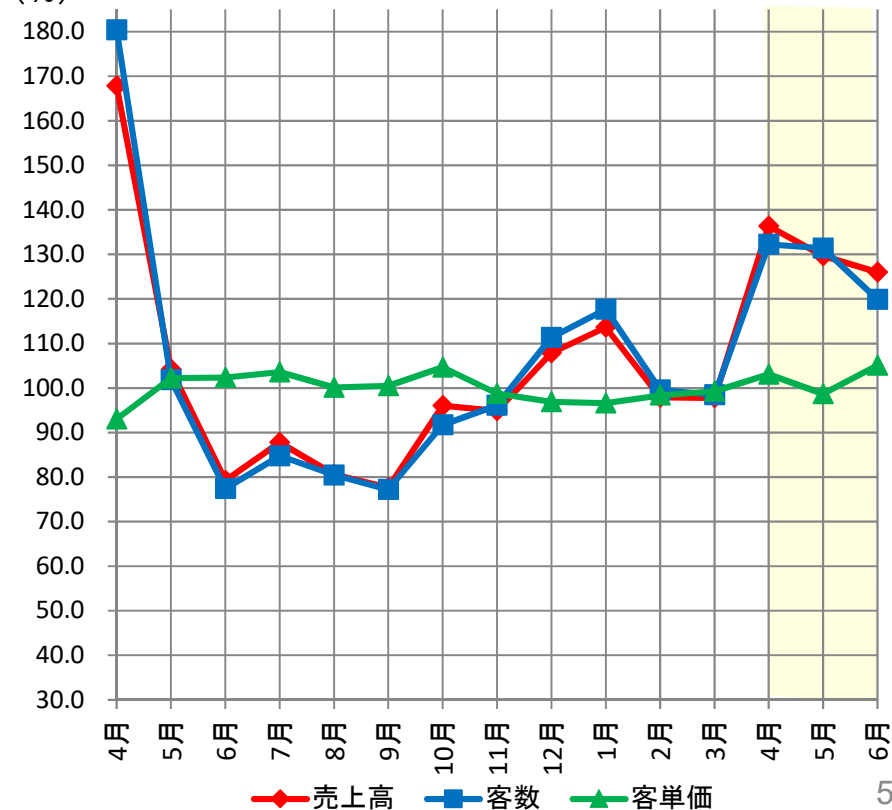
主力業態 既存店業績推移

- 3月下旬にまん延防止等重点措置が解除され、営業時間の制限が無くなり、来店客数が回復基調となり4月～6月は前年実績を大きく上回った
- 消費者の生活スタイルの変化やインバウンド需要の消失に伴い、都市部店舗及び郊外店舗におけるディナータイム以降の客数回復が鈍く、未だコロナ前水準の売上高までには戻らない状況が続く

◎和食さと 曜日特性修正後 既存店前年比



◎にぎり長次郎 曜日特性修正後 既存店前年比



業態別店舗数

	2022年 3月期末 店舗数	2023年3月期 第1四半期			2023年 3月期 出店計画 ②	2023年3月期 第1四半期末 契約済店舗数 ③	出店進捗率 (①+③)÷②
		出店 ①	閉店	店舗数			
和食さと	207 (－)	1	1	207 (－)	4 (－)	3 (－)	100%
家族亭※	67 (8)	－	1	66 (8)	－	－	－
にぎり長次郎※	66 (－)	－	－	66 (－)	3 (－)	1 (－)	33.3%
得得	63 (50)	－	－	63 (50)	－	－	－
天井・天ぷら本舗 さん天	44 (1)	－	－	44 (1)	2 (1)	－	0%
かつや	41 (14)	1	－	42 (15)	7 (2)	1 (－)	28.6%
めしや 宮本むなし	38 (2)	－	1	37 (2)	－	－	－
宅配寿司業態	11 (4)	1	－	12 (4)	4 (－)	1 (－)	50.0%
ひまわり※	9 (－)	－	1	8 (－)	－	－	－
からやま	6 (－)	－	－	6 (－)	1 (－)	1 (－)	100%
M&S FC事業※	20 (－)	－	1	19 (－)	6 (－)	1 (－)	16.7%
その他	18 (－)	－	1	17 (－)	2 (－)	－	0%
海外店舗	21 (16)	2	2	21 (17)	7 (7)	1 (1)	42.9%
グループ計	611 (95)	5	8	608 (97)	36 (10)	9 (1)	38.9%

() 内はFC・のれん分け及び合併事業店舗数

※「家族亭」業態には「花匂庵」「三宝庵」「家族庵」「蕎麦」「蕎菜」業態を含んでおります。

※「にぎり長次郎」業態には「CHOJIRO」業態を含んでおります。

※「M&S FC事業」は、M&Sフードサービス株式会社が運営する「ポポラマーマ」「ミスタードーナツ」「ドトールコーヒー」「大釜屋」、「炭火焼干物定食 しんぱち食堂」業態の合計店舗数です。

事業別施策 実施状況

事業別施策 実施状況

#	主要項目	施策内容 / 実施状況
1		◆新規顧客獲得、来店頻度向上に向けた取組み →「和食さと初代アンバサダー」としてNMB48渋谷凪咲さんを起用した、TVCMやWEB広告、折込チラシなど様々な媒体でのプロモーションを実施 →コロナ禍でも人気の焼肉要素を和食さとならではのスタイルで取り込み、しゃぶしゃぶと焼肉を融合させた「さと式焼肉食べ放題プレミアム」の販売実験を継続（7月19日より、対象店舗を拡大して実験を継続中） →「和食さとアプリ」会員数の獲得を目的に、新規入会特典や割引クーポンの配信を継続 ◆テイクアウト、デリバリーの需要拡大に合わせた取組み →デリバリー対象店舗の順次拡大（導入済店舗 6月末時点 176店舗） ◆生産性向上に向けた取組み →ワークスケジュール自動作成ソフトをテスト導入し全店展開に向け対象店舗を拡大中 →動画型双方向コミュニケーションツールを全店に導入、店舗における教育時間の効率化やキャンペーン内容や方針の現場浸透を図る →配膳ロボットの実験を継続し、導入店舗を拡大中 ◆新規出店の継続 →1店舗出店済（5月30日：和食さと 百舌鳥店【大阪府】）
2		◆新規顧客獲得、来店頻度向上に向けた取組み →人気お笑いコンビ「霜降り明星」を起用し、TVCMやLINE、Instagram等でプロモーションを実施 →39天丼を始め人気天丼4品を対象とした「390円祭り」を実施 →LINEを活用したポイント付与、キャンペーン告知を継続 ◆生産性向上に向けた取組み →生産性改善を目指した新プロトタイプ店舗の出店の検討を継続 ◆テイクアウト、デリバリーの需要拡大に合わせた取組み →デリバリー対象店舗の順次拡大（導入済店舗 6月末時点 43店舗）

事業別施策 実施状況

#	主要項目	施策内容／実施状況
3	  	◆テイクアウトの需要拡大に合わせた取組み →前期「にぎり忠次郎」直営店6店舗のブランド名を「宅配にぎり長次郎」へ変更、ブランド名変更後初の単独出店となる「宅配にぎり長次郎 北白川店」を京都市左京区に出店 →テイクアウト販売商品の拡充や、WEB注文受付可能店舗の拡大を継続 ◆生産性向上に向けた取組み →POSレジの自動釣銭機への切替が全店完了 ◆客数獲得に向けた取組み →新規・リピート顧客獲得を目指し、旬の素材を使用した期間限定商品の販売やキャンペーンを継続実施 →YouTubeやInstagramを利用した販売促進施策を強化 ◆新規出店の継続 →1店舗出店済（6月17日：宅配にぎり長次郎 北白川店【京都府】）
4	 	◆客数獲得に向けた取組み →家族亭で70周年、得得で40周年を記念した「周年祭キャンペーン」を実施 →夕方以降の飲み需要獲得を目的とし、一品4種類とアルコールがセットになった「そば前セット」の販売を開始 →得得ブランドの再構築を目指し、メニュー、価格を一新したリニューアル店舗での実験を継続 ◆テイクアウト、デリバリーの需要拡大に合わせた取組み →コンビセットや、ファミリーセットなど、テイクアウト販売商品の拡充を継続 ◆新たな顧客層の獲得を目指して、LINEやInstagramを利用した販売促進施策の実施を継続



#	主要項目	施策内容／実施状況
5	 	◆客数獲得に向けた取組み →既存店の収益力改善に向け、メニュー構成、内装を一新したリニューアル店舗「定食屋 宮本むなし」への転換を継続し、6月末までに8店舗を転換済 →コロナ禍の影響を大きく受ける駅前立地店舗の「炭火烧干物定食 しんぱち食堂」への業態転換を継続し、7月の転換3店舗目の開店に向けて、「宮本むなし 大須観音駅前店」を5月に閉店 →新規顧客獲得を目的とし、期間限定メニューの販売を継続 →LINEを活用したキャンペーン告知、特典付与を継続 ◆テイクアウト、デリバリーの需要拡大に合わせた取組み →デリバリーサービスの対象店舗拡大を継続（導入済店舗 6月末35店舗）
6	 	◆テイクアウト、デリバリーの需要拡大に合わせた取組み →デリバリー対象店舗の拡大（導入済店舗 6月末31店舗） →お客様の利便性向上に向け、テイクアウトの事前決済サービスを全店導入 →テイクアウト限定メニューの販売継続 ◆客数獲得に向けた取組み →顧客ニーズに合わせた期間限定商品の販売を継続実施、中でも5月に販売した「大人様ランチ」がSNS等で話題となり、期間中の来店客数増加に貢献 ◆コスト削減に向けた取組み →からやま業態において、廃油量削減に向けた取組みとして油濾過機の導入実験を開始 ◆新規出店の継続 →1店舗出店済（6月17日：かつや 豊中利倉東店【大阪府】）



※転換4店舗目となる「定食屋 宮本むなし JR六甲道駅前店」



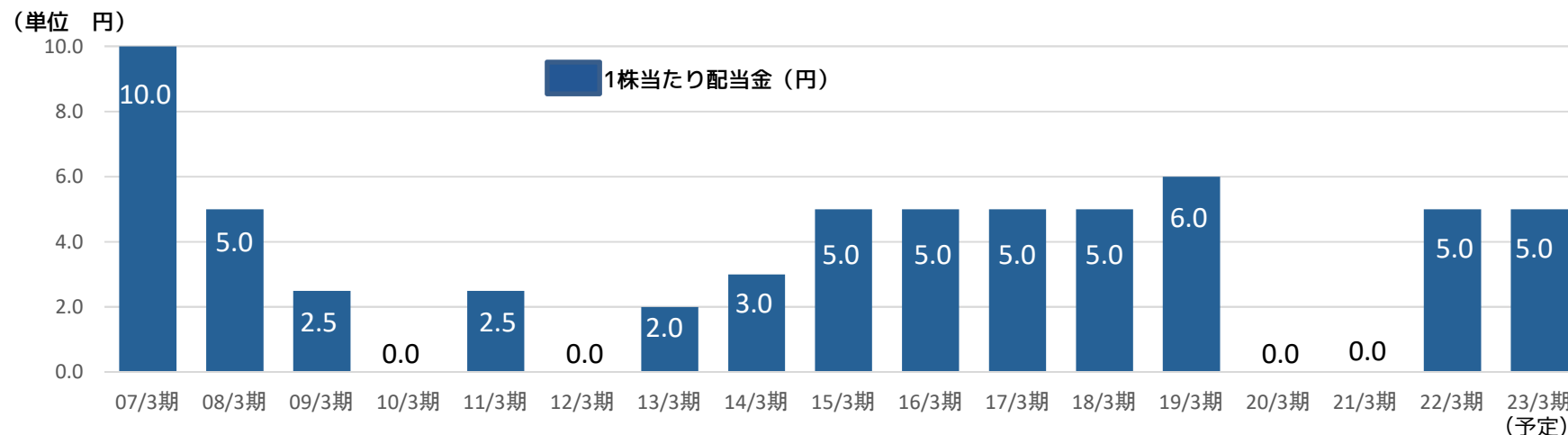
Appendix

株主還元

○配当実績並びに配当予想

当社は、極力安定的な配当の実現を重要な経営課題とし、経営状況及び内部留保の拡充を考慮しつつ、株主様への利益還元を実行中

- ・2022年3月期の1株当たり配当金 **年額5.0円**
- ・2023年3月期の1株当たり配当金 **年額5.0円**（予定）



○株主優待制度

基準日	所有株式数	贈呈内容
3月31日時点	1,000株	12,000円相当（500円×24枚）の株主優待券
9月30日時点	1,000株	12,000円相当（500円×24枚）の株主優待券
【使用可能業態】		
		



⇒年間で**24,000円**相当の御優待券を贈呈

貸借対照表(BS)

単位：百万円

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	2023年3月期 第1四半期	増減
流動資産	17,865	17,070	△794
固定資産	17,468	17,490	+21
流動負債	8,576	7,826	△749
固定負債	12,526	11,986	△539
純資産	14,390	14,901	+510
総資産	35,492	34,714	△778

・SDGsへの取り組みについて

SRSグループは、「私たちは、食を通じて社会に貢献します。」をフィロソフィーとした事業活動を通じて、当社の価値観に共感や支援をしてくださるステークホルダーの皆さまと共に成長し、SDGsが目指す持続可能な社会の実現に向けて、社会課題の解決と価値の創造に取り組んでまいります。

・経営理念とSDGs取り組み重点テーマ

DREAM パートナーと共に、夢の実現をめざします。

8 働きがいも
経済成長も



対応するSDGs目標

多様な人々が多様な才能を発揮し活躍できる環境を提供し、生産性の向上と持続可能な社会を実現するための社会基盤の構築を目指します。

ENJOY カスタマーと共に楽しさを分かち合います。

3 すべての人に
健康と福祉を



対応するSDGs目標

社会的インフラとして、心のこもったサービスと「安全・安心」な食事を提供し、あらゆる年齢のすべてのお客様に、「安くて」「美味しく」「楽しく満足できる」食事と空間の提供を目指します。

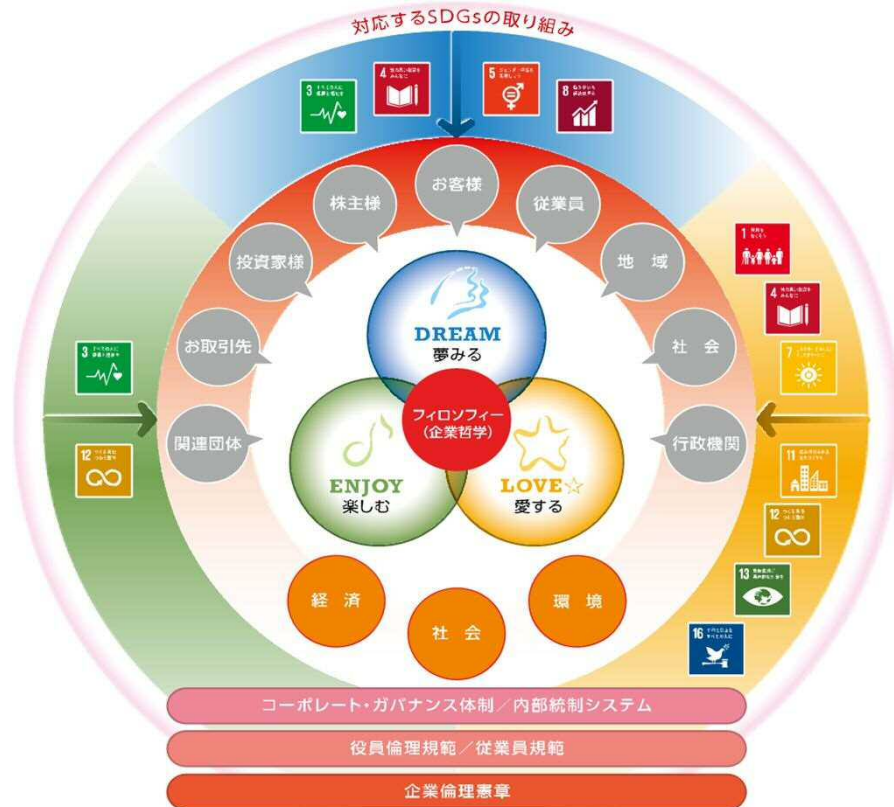
LOVE ☆ コミュニティーを愛し、人びとと共に生きます。

11 住み続けられる
まちづくりを



対応するSDGs目標

環境保全への取り組みや地域の方々との共生を通じて、コミュニティと共に発展し、愛し、愛され、親しまれる存在になります。



・ 当社の取り組みについて

	重点テーマ	取り組み内容	対応するSDGs
DREAM	パートナーと共に、夢の実現を目指します。		
	働きやすい職場環境づくり	年次有給休暇および7日間連続休暇の取得推進	  
		「和食さと」全店で、育児支援として「親子割」制度を継続	
		社会保険適用パート従業員の加入拡大	
		育児短時間勤務制度の拡充	
		本部部門のテレワーク勤務制度の導入	
	多様な人材登用・育成	定年年齢を65歳に延長、再雇用上限年齢を70歳に延長	 
短時間正社員店長の新規登用の継続とサポート			
ENJOY	カスタマーと共に楽しさを分かち合います。		
	安全・安心へのこだわり	当社基準に基づいた原材料の品質管理徹底	 
		従業員衛生教育の継続とHACCPに沿った店舗衛生管理の徹底による安心・安全の確保	
		行政の要請事項への協力、感染症防止対策の徹底	
	安全・安心へのアプローチ	店頭での原産地表示やウェブサイトでのカロリー・塩分・アレルギー情報等の表示	 

・ 当社の取り組みについて

	重点テーマ	取り組み内容	対応するSDGs
LOVE☆	コミュニティを愛し、人びとと共に生きます。		
	廃棄物削減の取り組み	食品廃棄物の再生利用等実施率目標達成に向け取り組み推進	 
		食べきりプロジェクトへの参加	
		フードバンクの活用	
	環境保全への取り組み	店舗あたりエネルギー使用量の削減	  
		ストローやレジ袋等、プラスチック使用量の削減に向けた取り組み推進	
	飲酒運転撲滅への取り組み	SDD（飲酒運転撲滅運動）活動の継続	 
		ハンドルキーパー運動の推進	
	帰宅困難者への支援	災害時帰宅ステーションの協力継続	
	社会貢献活動への参加、協力	キッザニア甲子園にて「すし屋」パビリオンを出展中	 
		セーブ・ザ・チルドレン活動、ジェフ愛の募金活動の協力継続	
	ステークホルダーとのコミュニケーションの充実	IR（機関投資家、アナリスト向け）決算説明会の開催	
		コーポレートレポートの発行および当社ウェブサイトのCSRサイト更新	
	コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンス体制の強化、コンプライアンスの徹底	

2023年3月期 出店店舗



2022年4月2日開店
さと丼 エンポリウム店 (タイ)



2022年5月10日開店
さと丼 セントラルプラザバンナー店 (タイ)



2022年5月30日開店
和食さと 百舌鳥店 (大阪府)



2022年6月17日開店
宅配にぎり長次郎 北白川店 (京都府)

2023年3月期 出店店舗



2022年6月17日開店
かつや 豊中利倉東店（大阪府）



お問い合わせ先

SRSホールディングス株式会社
経営企画部（岡本、児玉）

TEL: 06-7709-9977
メールアドレス: 873@sato-rs.jp

本資料に掲載されている業績予想は、本プレゼンテーション時において入手可能な情報に基づき判断した見通しです。
この中には、多分に不確定要素が含まれており、様々な要因によりこれら業績等に関する見通しとは大きく異なることがあります。
以上の前提をご理解いただき、投資に関する決定をされる場合にはご自身の判断で行われるようお願いいたします。